

海外で活躍するためには、 どのような能力が必要ですか?

BOSTO

皆さんは海外で働くというと「まずは英語」と思うので しょうが、必要とされているのは「技術」なので、交通 の技術をしっかりと身につけることが大事です。いくら 英語が上手くても、技術がなければ必要とされません。 その上で、できればコミュニケーション・スキルがあっ たほうが良いです。海外で働くには文化の違う人たちと 仕事をしなければならないので、お互いの価値観や考え 方の違いを理解しながら、チームで仕事ができるような 能力が必要です。(福田)



海外で仕事をするには、 やっぱり英語が必要ですか?

もちろん、基礎的な語学力は必要です。海外で働くとな ると、英語で話す力はもちろんですが、書く力も必要で す。英語でレポートが書けなければ仕事になりません。 交通システム工学科では、そうした能力を鍛える授業も 展開しています。(福田)

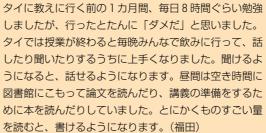




Q3

どうすれば英語が上達しますか?

自分の専門分野の論文を英語でしっかり読むようにする と、専門用語が頭に入りますし、表現が身につきます。 たくさんの文献を読むと、交通分野であれば交通に関連 する同じ単語が出てきますから、すんなり入ってくるよ ◆ うになります。(佐田)





海外で活躍できるようになるために、 交通システム工学科にはどのような 授業がありますか?

科学技術英語Ⅰ・Ⅱでは、交通システム工学科の教員と 一般教育の英語教員とが相談して、独自の内容で英語 の授業を行っています。とくに科学技術英語Iでは、 Skype を使って海外の大学生とオンラインでやりとり しながら英語を学んでいます。さらに国際コミュニケー ション論、English Communication I · I と併せて 5科目を受講すると、英語のコミュニケーション・スキ ルが高められるようになっています。交通システム工学 科には「エンジニアリングコース」と「マネジメントコ ース」がありますが、「マネジメントコース」は海外で 活躍するエンジニアの育成を念頭に置いていますから、 国際開発援助論という科目も設置し、海外の国々、とく に途上国についての最低限の知識が得られるようにして います。(福田)



交通システム工学科では2年に一度、海外研修を行って います。これは正式な授業として開講していて、単位が つきます。毎回、違う国に行って現地で2週間ほど勉強 し、最後にレポートを提出します。(佐田)

授業以外に、国際交流ができるよ な取り組みはありますか?

理工学部の「未来博士工房」には9つの工房があります が、そのひとつが交通まちづくり工房です。その中に国 際まちづくり班があり、低学年から海外に行って現地の 大学の学生や先生方、そして地元の人たちと一緒に活動 します。外国語の習得というのは、モチベーションがす べてです。海外に行って友達ができて、自分の伝えたい ことが伝えられないもどかしさを感じたときに、切実に 「言葉を覚えたい」「自分の考えていることを相手に伝え たい」と思うはずです。だからこそ、そういう機会を皆 さんにつくってあげたいと思っています。また、日本大 学本部で行っている短期海外研修にはケンブリッジ大学 で行うサマースクールもあり、素晴らしい環境で英語の 勉強ができます。(福田)







交通Bulletin/2014年夏期号 — 3